



## 情熱的な母の存在

アンファッション カレッジは昭和19年、私が生まれる前に母が立ち上げた洋裁学校です。私も小さなころからものを作るのが好きで、小学3年生ごろには人形の服をミシンで作り、「いつか、この学校を引き継ぐのは私だ」と思うようになっていました。母は大変情熱的な人でした。とにかく、自分のやりたいことはやり抜く人。例えば、私が小学2年生のころ、「勉強をやり直したい」と、学校や家族を残していきなり東京にあるファッションの学校へ2年間も行ってしまったことがあります。寂しい思いをしたことは多いですが、結果的には、生涯現役で続けられる仕事を与えてもらったと感謝しています。

## 人・まち・ファッションの出会いが生んだもの

製陶業を営んでいた父

の影響で、陶磁器は身近な存在でした。一昨年の秋、市之倉で開催した「ICHINOSEKURA Collection(イチコレ)」で陶磁器をテーマにしたファッションショーが企画できたのは、幼少期から



アンファッション カレッジ学校長  
あん どう き く こ  
安藤貴久子さん(上野町)

所有する美濃焼を見せたら、大変興味を示してくれました。さらに、市内の美術館や窯元へ見学に行つて美濃焼を見せると、その造形やモダンな柄に生徒が惹かれていくのが分かりました。陶磁器

陶磁器と親しんできた下地があったからだと思えます。「イチコレ」で、私は生徒に陶磁器をテーマにデザイン・制作するという課題を与えました。陶磁器に対する知識が全く無い生徒が多い中、私の下

だけで若い人たちの興味を引くのは限界がありません。ファッションという違う切り口で陶磁器を絡ませてアプローチできたのは良かったと思います。初めての取り組みで、粗削りな部分はありましたがこれ

## ものを深く見る

はスタートライン。これからも地域に溶け込んだファッションショーができると思い思っています。

私はいつも生徒に「何をするにも心を込めて向き合うことが大切」と言っています。生徒には、建築物や陶磁器などさまざまなものをテーマにデザインをさせます。その時に、形だけを見るのではなくその形の意味を考えるように指導します。上辺だけ見てデザインに利用しようとしても、そこに共通する精神性を落とし込むことができませぬ。ものを作るということは、ものを深く見る習慣をつけることだと思います。私のこのような考え方の素地は、ものづくりのまち多治見で育まれたものですし、これからの教育にとっても欠かせない要素ではないかと思っています。



# 輝く女性

※本連載では、市内の事業所や地域など、さまざまな分野で活躍する女性のインタビューを掲載します

人口と世帯数の動き	
平成28年5月1日現在	
総人口	
112,927人	(前月比 +36人)
男 54,980人	(前月比 +32人)
女 57,947人	(前月比 +4人)
世帯数	
45,521人	(前月比+86世帯)

## 200円バスでどこ行こう

いよいよ「モザイクタイルミュージアム」の開館です。外観がユニークでまるで不思議の国。小道をたどって入口をくぐるなんてワクワクします。中はどんな風になっているか楽しみですね。

行き方は、東鉄バス「多治見駅前」2番のりばから笠原線に乗車し6月中は「笠原役場前」、7月1日からは「モザイクタイルミュージアム」で下車です。200円バスに乗ってぜひお出かけください。

多治見市内 平日10時から16時 1乗車200円の東鉄バスで!